

# 震災後のふるさとが舞台 映画を地元で上映 石巻

12月12日 09時56分



東日本大震災から11年9か月となつた11日、大きな被害を受けた石巻市出身の女性が、震災後のふるさとを舞台に制作した映画が地元で初めて上映されました。

石巻市出身の佐藤そのみさん（26）は、中学2年生のとき震災に遭い、児童と教職員合せて84人が犠牲となつた大川小学校で、当時6年生だった妹

を亡くしました。

佐藤さんは、大学在学中に震災後のふるさとを舞台にした2本の映画を制作していて、11日は地元で初めて上映会を行い、およそ200人が訪れました。

このうち、「春をかさねて」と題した作品は、震災で妹を亡くした2人の女子中学生が、お互いの考え方を理解できずにすれ違うものの、時間をかけて歩み寄る姿を描いています。

また、大川小学校できょうだいや友人を亡くした若者たちが、みずからの思いを手紙につづったドキュメンタリー作品も上映されました。

地元出身で実家が被災したという女性は「映画の風景を見ると、子どものころが思い出されてよかったです。ふるさとの現状を見ると涙が出ることもありますが、残されたものとして頑張っていきたい」と話していました。

佐藤そのみさんは「震災後はお互いに心の内を打ち明けにくかったと思う。映画を通して1人1人の思いが共有できていればうれしいです」と話していました。